

はんチューナーズ便り



発行人
看護部長室

Vol.15

研修情報

今年度の外部研修受講状況です。

看護協会で開催される様々な研修に多くのスタッフが参加して学んでいます。院内研修もたくさんありますが、外部の方と交流することも、とても学びになりますね。

メインの研修に参加しているスタッフの状況をお知らせします。

セカンドレベル教育は、加藤弘美師長(教育担当)が終了。高林千恵美師長(3B病棟)はこれから参加します。

ファーストレベル教育は、宮内結美子主任(3A病棟)が終了。

実習指導者講習会には、山本智也さん(3A病棟)が参加しました。

山本さんは、最後の演習発表会で「成人看護学実習3年課程：カンファレンスを活用して学んだ寄り添う看護」の演目で発表者として登壇し、講習会を締めくくりました。

今現在真っ最中なのが、医療安全管理者研修です。

各部署から主任、リーダークラスが参加して学んでいます。



今後の予定

インターンシップ、病院見学会など

随時、希望者を募集しています。

HPに申込方法が記載されていますので、ぜひ参加して、病院の雰囲気などを見てください。

看護部のインスタも研修の内容や部署の紹介などをアップしています。フォローよろしくお願いします。

10月5日にイベント「わくわく医療フェア」が開催されます。様々な部門が参加します。ぜひお越しください！

看護部は、お子さんが喜ぶように楽しい企画を計画しました。メインは、ハロウィンも近いのでハロウィン工作です。



看護部長のひとりごと

ユマニチュード、今回は「立つ」技術についてです。

人間は直立する動物で、立つことによって体のさまざまな生理機能が十分に働くようになってきています。立つことは「人間らしさ」の表出のひとつです。1日合計20分立つ時間を作れば立つ能力は保たれ、寝たきりになることを防げると提唱しています。トイレや食堂への歩行、洗面やシャワーを立って行うなどケアを行う時にできるだけ立つ時間を増やすことで実現できます。

今まで話してきた「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱は一見目新しいことはなく、ケアをしている人の多くは「当たり前なこと」、「自分はずっとそうしている」と思っています。しかし、ケア映像の情報学的な分析では、「相手のことを大切に思っていることを伝えるため」の4つの柱はほとんど使われていないことがわかりました。意識して実践してみましょう。